

インターバンクの声（2016年9月1日）

いよいよ注目の8月米雇用統計の発表が明日となったが、昨夜の海外市場でも円売り・ドル買いが続き、ドル円はドルが強気相場入りするかどうかの節目の水準になると意識されている103円50銭を僅かに越える場面もあった。さすがに雇用統計の結果を待たずに、さらに大きく円安方向に進むことには躊躇する人も多くなると思われるが、102円台の中盤から円安が進んだ局面ではドル売りに動いた人たちも多いようで、明日までに極端な円高への調整が進むのも考え難い。昨夜のニューヨーク時間に発表された8月のADP雇用統計も市場予想を上回り、ボストン連銀のローゼングレン総裁が「やや早めの金利正常化が適切」と発言したことが円売りの継続につながったようだ。少し気になるのは、原油価格がニューヨーク市場の終盤に下がったことと、株安があまり為替に影響しなかったことだ。結果が出る前から心配しても仕方がないが、明日の雇用統計が弱かった場合の円の買戻しの幅が必要以上に大きくなる可能性もありそうだ。英国の欧州連合(EU)離脱を決めた国民投票後の大相場がトラウマになっている市場参加者が多いことも、明日は大相場になるとの連想になっているらしい。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。